

新 人 紹 介

浅海干潟研究部 多治見 誠亮

平成 24 年度の新規採用職員で水産技術職の、多治見誠亮と申します。4 月から当センターの浅海干潟研究部に配属となりました。

県職員になってからは、県民の皆様、特に漁業に関わっておられる方々と接する機会が多くなり、直に皆様のニーズに応えることが出来ることで、仕事にやりがい

を感じている反面、県職員としてその重要さと責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いで業務に当たっている昨今です。

ここで私の担当している業務ですが、現在は県内各海域の漁場環境（水温・塩分・溶存酸素等）やプランクトンの発生状況を調査船「あさみ」「ひのくに」に乗船しての定期調査を通じて把握・解析して各関係機関に情報発信する業務を担っています。近年は、海水温の上昇・有害赤潮の多発化など漁場環境の変化・悪化が懸念され水産資源は減少傾向にあり、実際に有害赤潮の多発化では魚介類に被害が生じています。

熊本県は全国でも有数の水産県ですが、今後も持続的に漁業生産を行っていくためには漁場環境の長期的な把握・赤潮被害の低減に努める必要があります。

まだまだ経験不足な私ではありますが、諸先輩方の厳しいご指導を受け、日々努力し、熊本県の水産業の振興に少しでもお手伝いできればと思います。今後も身上の軽いフットワークで、現場に数多く出向いて行きますので、お目にかかれた際はよろしくお願い致します。



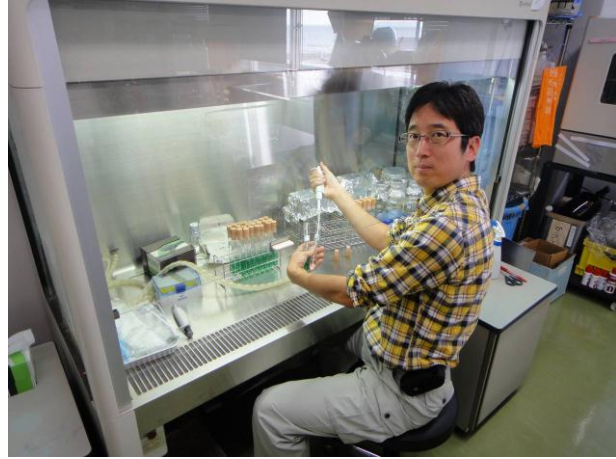
転入者紹介

食品科学研究部 吉村 直晃

本年度4月から食品科学研究部に配属となりました吉村直晃です。

水産研究センターへの勤務は2度目で、以前は赤潮を担当しており、朝からお昼過ぎまで海を調査し、肉眼では見えない小さなプランクトンを顕微鏡で観察する日々が大半でした。しかし、今回は二枚貝類に蓄積される麻痺性貝毒、水産加工における微生物汚染の状況把握など食品衛生に関することやマダイの品質評価に関する業務などを担当しており、以前に比べると大きく、ヒトが食べるものを対象とした研究を行っています。

まだまだ修得しなければならないことが多く、水産加工業などに従事されている皆様からアドバイスをいただくため、現場まで御相談に伺うことがあるかと思いますが、その際にはよろしくお願ひします。



表紙写真「有用海藻類の増殖への取り組み」について

海藻は、海の生物や人の食べ物になるだけでなく、海水中の窒素やリンを吸収し、海の環境保全にも役立っています。

水産研究センターでは、海藻を積極的に増やすための試験に取り組んでいます。写真は、人工的に成熟させたり、苗を育てる試験中に撮ったものです。